

映画から見るアジア文化の未来 ～東アジア文化都市シンポジウム～ 観覧者募集



2014年、横浜市は日本の初代「東アジア文化都市」として様々な文化芸術事業を実施してきました。本事業が終幕を迎えるにあたり、日・中・韓の映画界を代表する4名のゲストを招き、アジア映画をテーマとしたシンポジウムを開催します。シンポジウムでは、東アジアの映画の現状、世界を視野に入れた今後の可能性などについて意見交換いただきます。

つきましては、観覧者募集についてお知らせします。

1 東アジア文化都市シンポジウムの概要

- 開催日時 平成 26 年 11 月 23 日(日) 午後 7 時～8 時 30 分 (開場: 午後 6 時 30 分)
- 会場 パシフィコ横浜 会議センター 5 階 (西区みなとみらい 1-1-1)
- 主催 2014 年東アジア文化都市実行委員会
- テーマ 「映画から見るアジア文化の未来」
- パネリスト **【日本】** 行定 勲氏 (映画監督・脚本家)
別所 哲也氏 (俳優)
【中国】 ジャ・ジャンクー氏 (映画監督・脚本家)
【韓国】 パク・ジョンボム氏 (映画監督)
- 観覧料 無料
- 観覧者募集数 先着 200 名 (事前申し込み制、申し込み方法は下記 2 のとおり)

2 申し込み方法

はがき又はファックスでお申し込みください。

- 送付先
 - ・はがき 〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23
「東アジア文化都市シンポジウム」事務局 (神奈川新聞社内)
 - ・FAX 045-227-0765
- 記載内容 (はがき・FAX ともに)
郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、来場希望人数 (2 名まで)
- 応募締切 11 月 19 日 (水) 必着。定員になり次第、応募を締め切り。
- 結果お知らせ 11 月 22 日 (土) までに、参加可能の方には参加整理票 (はがき) をお送りします。
- お問い合わせ先 「東アジア文化都市シンポジウム」事務局 電話: 045-227-0778
(神奈川新聞社クロスメディア営業局内)

『東アジア文化都市 2014 横浜』公式ウェブサイト

URL: <http://culturecity-eastasia.jp>

東アジア 横浜

検索

お問い合わせ先

文化観光局創造都市推進課東アジア文化都市担当課長 松元 公良 TEL 045-671-4203

裏面にパネリストのプロフィール等あり

【参考】パネリストプロフィール等

【日本】



ISAO YUKISADA

行定 勲

映画監督・脚本家

〈主な監督作品〉

『GO』2001年

『世界の中心で、愛をさけぶ』2001年

『北の零年』2005年、『春の雪』2005年

1968年、熊本県生まれ。『ひまわり』(99)で劇場映画監督デビューし、釜山映画祭国際批評家連盟賞を受賞。その後『GO』(01)、『世界の中心で、愛をさけぶ』(04)等を監督。『パレード』(10)でベルリン映画祭国際批評家連盟賞を受賞。2011年、釜山映画祭の委嘱でオムニバス映画『カメラ』の一編、『Kamome』を監督。最新作は中国との共同製作による『真夜中の五分前』(14)。



TETSUYA BESSHO

別所 哲也

俳優

〈主な出演作品〉

『大統領のクリスマスツリー』1996年

『相棒シリーズ X DAY』2013年

『TATSUMI マンガに革命を起こした男』2014年

1990年、日米合作映画『クライシス2015』でハリウッドデビュー。1999年より、日本発の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル」を主宰し、文化庁長官表彰を受賞。観光庁「VISIT JAPAN大使」、内閣官房知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員、横浜市専門委員、映画倫理委員会に就任。第63回横浜文化賞受賞。

【中国】



JIA ZHANG-KE

ジャ・ジャンクー

映画監督・脚本家

〈主な監督作品〉

『プラットフォーム』2000年

『イン・パブリック』2001年

『長江哀歌』2006年

1970年、中国山西省生まれ。北京電影学院卒業制作として監督した第1作『一瞬の夢』(97)がベルリン映画祭新人監督賞を受賞。オフィス北野との共同製作による第2作『プラットフォーム』(00)はベネチア映画祭最優秀アジア映画賞を受賞する。2006年、『長江哀歌』でベネチア映画祭金獅子賞を受賞。最新作はカンヌ映画祭脚本賞を受賞した『罪の手ざわり』(13)。

【韓国】



JUNG-BUM PARK

パク・ジョンボム

映画監督

〈主な監督作品〉

『サギョンを彷徨う(Templementary)』2000年

『ムサン日記～白い犬』2010年

1976年、ソウル生まれ。数本の短編映画を監督した後、イ・チャンドンの助監督を務める。2010年、初の長編劇映画『ムサン日記～白い犬』を監督。釜山映画祭ニュー・カレンツ賞、国際批評家連盟賞、ロッテルダム映画祭タイガー・アワード、東京フィルメックス審査員特別賞など、数々の受賞に輝く。最新作はロカルノ映画祭で上映された『生きる』(14)。